

吉中☆ミライトークセッション

校長 武井 正明

3年生が卒業して火曜日になった。朝の登校風景も、どこことなく寂しい感じがするのは気のせいかな。

昼休み、久々に体育館に行ってみる。いつも通り、楽しくボールで遊んでいる、数多くの1年生がいた。女子のバレーに入れてもらう。なかなか上手。いつも通り楽しい時間。やっぱり吉中生たちの笑顔は、いつ見てもエネルギーが湧く。

学校は、年度末年度初めのまとめと準備の段階に入っている。

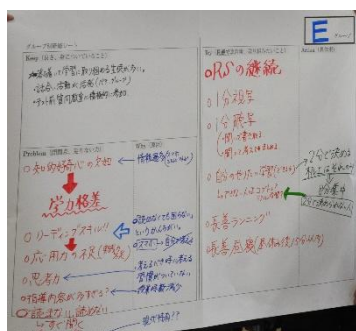
大山学習指導主任からの、今の吉中の良さや課題を、自由に発言し合う時間を設定させてほしいという申し出を受けて、放課後に校内職員研修「吉中☆ミライトークセッション」と銘打って実施した。

始めに大山先生から「今の吉中生の学習面の課題は？」という視点で話し合い、ゴールは「長善タイムで行う活動のアイディア」と示し、6グループで進められた。

さすが吉中の先生方だ。司会進行、記録、発表がすぐに決まり、話し合いが早速始まった。方法はKept法というやつ。Keep（身に付いていること）Problem（問題点）Try（改善策や取り組んでみたいこと）の順に整理する。これも記録の先生方が手際よく、まとめていく。



その結果、「自分で考えてやる力の不足」や「わかったつもり」の生徒が多い」「できる楽しさがまだまだ実感できていない」などの問題点や課題が次々と挙がってくる。



できる楽しみを実感させるためには、やはりドリルの積み重ねで、着実に知識を習得することも大切だという意見が出る。また、ひとりで学習できる力を作るために、計画を立てる長善、その日にやることを明確にする長善を、といった案も出た。

私が嬉しかったのは、限られた時間の中で、お互いが感じている吉中生の特性について、全職員が豊富な言葉で表現できていること、そしてその活発な意見交換が、いい時間になっているように見えたことだ。

大山先生は、この話し合いの内容を踏まえて、次年度の取組で実現可能なものを探っていく。彼は「責任重大です」と気持ちを引き締めた。

次年度の吉中、授業の充実に重点を置き、ひとりひとりが成長できる「**自他を尊重した愛ある教育**」を展開していきたい。